シリーズ人権教育　第１３５回

マイノリティ（少数派）

について考えてみよう

階段を歩いて

上り下りするのは﹁ふつう﹂？



　あなたが自分の足で歩いて階段を上がれるとして、突然、すべての住人が背中に翼を持つ社会に投げ込まれたらどうなるでしょうか。

　そこには、おそらく階段というものがありません。みんな翼で飛んで上下の階に移動するのが「ふつう」だからです。背中に翼を持つ人々に手伝ってもらわない限り、あなたは目的の階へ移動することができません。

　このように、何が「ふつう」であるかは、相対的に決まるものなのです。

右利きが﹁ふつう﹂？

　次の「２５ます計算」をしてみてください。縦軸と横軸の数字を足して、すべてのますを埋めてください。

　いかがでしたか。右利きの人は、いちいち右手を上げて、隠れた数字を見ながら計算しなければならなかったのではないでしょうか。これで計算力やスピードの向上を求められるとしたらどうでしょうか。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **７** | **３** | **８** | **２** | **９** | **＋** |
|  |  |  |  |  | **４** |
|  |  |  |  |  | **５** |
|  |  |  |  |  | **１** |
|  |  |  |  |  | **６** |
|  |  |  |  |  | **８** |

　電話機の受話器、カメラのシャッター、パソコンのテンキーやエンターキーの配置は、右利きを前提としていることがほとんどです。

構造の中の力関係

　私たちが暮らしている社会には、立場や関係性を生む、さまざまな構造が存在しています。

　子どもと大人、教員と生徒、子ども同士、職場の部下と上司、地域の人と役員など、さまざまな場において「みえない力関係」が働いていて、それが抑圧につながることがあります。

　また、何気なく語られる「当たり前」「ふつう」という言葉の中には、多数派が少数派を認めようとしない、差別につながる決めつけや排除が隠れている場合もあります。自分が多数派であることにすら気づいていない場合も多いでしょう。

人権が守られる社会に

　「ふつう」が相対的なものであるならば、社会の構造を変えていくことで、一方が「ふつう」で、もう一方が「ふつうでない」という非対称な状態を解消していくこともできるのではないでしょうか。

　すべての人の人権が守られる社会にしていくためには、問題に気づく感覚を持つことがとても大切です。

参考資料／

○倉本智明著「だれか、ふつうを教えてくれ！」

○財団法人大阪府人権協会編「人権学習シリーズＶｏｌ・７　みえない力　つくりかえる構造」